

学生×地域
つながる未来
プロジェクト

学生×地域つながる未来プロジェクト

参加学生の 地域活動体験レポート



プロジェクトについて

学生

(大学生、大学生、専門学校生など)

×

地域活動団体

×

京都府

学生×地域つながる未来プロジェクトは、地域活動に挑戦したい大学生と、地域活動団体を、京都府がつなぐプロジェクト。より良い地域をつくるための活動を応援しながら、大学生の学びの場を地域へと広げます。学生・団体・京都府、それぞれが対等に協力し、主体性を発揮しながら一緒に地域を盛り上げていきます。

多彩な地域活動団体が 待っている！

「環境保全活動」「地域の居場所づくり」「商店街活性化」「教育」「アート体験」「まちおこし」等、毎年多様な活動に取り組む団体が、大学生を受け入れています。本プロジェクトの参加学生は、それらの団体の中から、自分の関心のある団体を選び、1年間かけて、ともに活動に取り組めます。

地域を知れば、 京都をもっと好きになる。

京都で学生時代を過ごしていても、地域との関わりは意外と少ないかもしれません。地域の課題や取組、そこに暮らす人々の想いに触れたとき、あなたはきっと、いつものまちをもっと好きになるはず。このプロジェクトで、一步深く踏み込んだ「地域」を、体験してみませんか？



NPO法人
丹波漆（たんばうるし）チーム
令和2、3、4、6年度参加

森下 航平さん

Morishita Kohei

一貫制博士課程 3回生



学生チームが主体となって作成した「丹波漆を考えるアイデアブック」。

活動の経験が「計画し、実行する力」に

大学2回生から大学院生の約6年間、京都府内唯一の国産漆の産地である福知山市夜久野町（やくのちょう）で、漆の地域文化の保存・啓発を行う、「NPO法人丹波漆」の活動に参加しました。コロナ禍に、SNSにより地域の魅力を発信するというテーマに興味を持ち、参加しました。

1年目は、活動見学や体験を通して漆のことを知る年でした。2年目3年目は、団体や新規学生メンバーとの調整や、プロジェクトの企画立案から実施までを担当し、マネジメント力を養うことができました。現在はメンター的な役割として、海外からオンラインで会議等に参加しています。

チーム活動の進め方で悩んだ時は、京都府の協働コーディネーターの方のサポートもあり、チームメンバーの関心事から今後の活動を定めることができました。イベントでワークショップをする際には、はじめての学生も多いので、事前に練習会をする等、準備の大切さを経験しました。

本プロジェクトでの経験は、大学院進学後に参加した海外の農村開発支援にもつながっています。海外（ブータン）の学生チームへ、限られた予算の中で実現可能なプロジェクトについて、経験を踏まえて助言することができました。

本プロジェクトは、活動期間が1年間と

決まっていて見通しが立てやすいです。活動で悩んだ時の京都府のサポートもありがたいです。また、当日ボランティアや広報、イベント運営に関わる業務等、自分に合ったボランティアの関わり方を探すことができます。

どのようにボランティアを始めたら良いのかわからない学生でも、はじめの一歩として参加しやすいと思います。

【写真】上：活動地域のウルシの木を訪れ、団体・学生とともに記録する様子/左下：団体が採取した漆を観察する様子/右下：学生で企画した「散策マップ」作成のために、地域で情報収集する様子

※学年・所属はインタビュー時（令和7年度）



「また帰ってきたい」と思える場所



上：畑作業の様子/左中：「Team DO IT!!!」チームの仲間たちと/右中：カフェメニューを試作する学生メンバーたち/下：チームの仲間たちと試行錯誤を繰り返し、完成させたカフェメニュー。団体の畑で育てた紫いもを使用。



Team DO IT!!! チーム
令和6、7年度参加

K.M さん

地域創造学部 4回生

大学3回生、4回生と2年連続で、亀岡市内で地域おこしに取り組む、「Team DO IT!!!」の活動に参加しました。活動では、地域の方と畑作業をしたり、地域のためのカフェイベントに、学生メンバーで企画から関わったりしています。

1年目は団体内の学生リーダーをさせていただきました。学生メンバーはそれぞれ忙しく、なかなか対面で会う機会が作れなかったことから、最初は意思疎通に悩んだ場面もありました。でも勇気を出してメンバーにアンケートを取ってみたいところ、皆もっと活動したいと思っていることがわかり、そこから積極的に動き出すことができ

ました。相手にどう思われるか、ということに気にするよりも、必要だと思ったときには自分から想いを伝えてみることの大切さを学びました。

2年目は、全体を見渡しながらかつ新メンバーやチームを支える役割を担いたいと考え、リーダーではない立場での参加を希望しました。これまでチームで何かをするという経験があまりなかったのですが、その時々、周りにいるメンバーや状況が異なる中で、「今、自分が何をしたら全体がより良くなるか」ということを考えながら動けるようになりました。また、周りに働きかける力や、人に想いや考えをわかりやすく



伝える力がついたな、と思います。2年間の活動を通して、京都や亀岡という地域に愛着が芽生え、そこに暮らす人々にも親しみを感じるようになりました。これから就職して関西を離れますが、また帰ってきたいと思える、自分にとって大切な場所です。

新しいことに挑戦するのはドキドキすると思いますが、団体の方は皆優しく、京都府の方もサポートしてくれるので、安心して参加することができます。やってみたいと思っている方は、ぜひチャレンジしてみてください。

※学年・所属はインタビュー時（令和7年度）



上：暖を取りながら、畑の収穫物を仕分けしている様子/
右上：竹細工をみんなで作っている様子/右下：登山道の
木製階段を作っている様子（木は現地調達！）

NPO法人
ビオトープネットワーク京都 チーム
令和7年度参加

調 佳知さん
Shirabe Yoshitomo

経済学部 4回生



自分の世界が大きく広がった

大学4回生になり、何か新しいことに挑戦したいと本プロジェクトに申し込みました。もともと地域貢献や自然、子どもに興味があったため、里山で活動する「NPO法人ビオトープネットワーク京都」の活動に参加しました。

活動の中では、イベントの企画や庶務を担当し、メンバー同士で役割を分担しながらミーティングを重ね、それぞれが役割を果たせるよう、工夫して進めています。これまでチームで何かを行うときは、ムードメーカーとしての役割を担うことが多かったのですが、今回は細かい部分のチェックなど、これまであまり経験してこなかった

役割にも挑戦しています。プロジェクトを通じて取り組んだことは、自分の能力として身につけていると感じています！また、団体担当者さんからの提案で、イベントの資金調達のために市町村の補助金申請にチャレンジしてみたり、森林の研修に参加してみたりするなど、普段の学生生活では得られない経験をたくさんさせていただきました。

団体の皆さんは優しく、様々なことを教えてくださいました。活動を通して色々なものに触れたことで、見方が変わるという経験がたくさんありました。地域のことを臆せず話せるようになり、地方に行くの

が楽しくなったことも、一つの変化だと思います。地域のことを知るにつれて、それぞれの地域が持つ特徴や課題について理解が深まったことも、面白く感じました。

活動には大変なことや面倒に感じることもあります。自分の考えたことや取り組んだことが形になっていく過程は本当によろしいです！団体さんの存在は、自分にとってチャレンジできる場所であり、成長できる場所であり、「打ち込める」場所だと思っています。

※学年・所属はインタビュー時（令和7年度）



関わって知った、
地域の人々の熱意



左上：商店街の鉢植えのお花の植え替えの様子/右上：京都版 ミニ・ミュンヘン 事前ワークショップの様子/
左下：SSHで一から企画したクリスマス会の様子/右下：科学ワークショップの様子

Shopping Street Hack チーム 令和5年度参加

M.Kさん

経済学部 3年生



幼い頃に4つの街で暮らした経験から、それぞれに異なる姿や魅力を感じさせる「地域」に興味を持つようになりました。大学生になり、時間がある今だからこそ地域活性化に関わりたいとの想いから、本プロジェクトを通じて地域の商店街を盛り上げる活動を行う「Shopping Street Hack」という学生団体に参加しました。

活動はイベント運営が中心でしたが、当日の運営だけでなく、事前準備や関係者との調整など、多くの作業があることを知り、その大変さに戸惑うこともありました。

2年目からは運営側として団体に参加

し、3年目には代表を務めました。学生だけの団体に「何が正解なのか」手探り状態の中、同じ地域で商店街の活性化に取り組んでおられる大人の方々に支えていただき、様々な課題を少しずつ乗り越えることができました。

この活動を通して成長したと感じるのは、周りの方を巻き込みながら進める力が身に付いたことです。大学の中だけでは出会えない方々と一緒に活動する中で、協力し合う難しさと楽しさを学びました。

会議の場で声をかけていただいたり、名前を覚えていただいたりしたことは、今でも大きな励みです。人口減少が進み、地域

の元気がなくなっていると思い込んでいましたが、実際には熱意を持った方がたくさんおられ、その姿勢に心を動かされました。

最初は縁のなかった地域でしたが、多くの方と繋がるうちに、今では愛着のある場所になりました。知らない世界に飛び込むのは不安もあると思いますが、それ以上に得られる学びと出会いが待っています。

参加を迷っている方には、ぜひ一度踏み出してみてください。

よければ「Shopping Street Hack」にもぜひお越しください！

※学年・所属はインタビュー時（令和7年度）

令和7年度の事業実績

京都府内で活動する**13団体**と**60名の学生**をコーディネートしました！

うち、1回生 15名 2回生 14名 3回生 21名 4回生 6名 大学院生 4名

たくさんの大学から参加しています！

大谷大学、関西学院大学、京都大学、京都芸術大学、京都産業大学、京都女子大学、京都市立芸術大学、京都精華大学、京都先端科学大学、京都府立大学、京都文教大学、芸術文化観光専門職大学、神戸大学、同志社大学、奈良県立大学、福知山公立大学、佛教大学、立命館大学、龍谷大学ほか（五十音順）

尊重し合い 一緒に取り組む

「対話」と「協働」を大切に

さまざまな目的をもって活動する団体の想いを、まずは対話を通して理解すること。そしてそれらの目的を実現するために、一緒に何ができるかを考えること。このプロジェクトでは、そんな姿勢を大切にしています。世代・経験・属性が異なる人同士が集い、お互いの特性を活かし合い、また補い合いながら活動することで、より大きな力が生まれるのが、地域活動の魅力のひとつです！

それぞれの可能性に チャレンジできる場所

参加動機はいろいろ！

「ボランティアや地域活動に関心がある」、「人とのつながりを広げたい」、「学んでいることを活かして誰かの役に立ちたい」、「コミュニケーション力を磨きたい」などなど、参加動機は様々です。「得意」を活かしたい人も、「苦手」を克服したい人も、ぜひチャレンジしてみてください！

あなたも、地域で活動してみませんか？

令和8年度年間スケジュール



参加方法

4月～5月頃、HPやSNSで学生募集情報を発信します。
ご不明な点があれば、メール又はお電話でお気軽にお問い合わせください。



「学生×地域」
HP

京都府文化生活部文化生活総務課 府民協働係

京都市上京区下立売通新町西入藪ノ内町

電話番号 075-414-4212

メール bunkaseikatsu@pref.kyoto.lg.jp

ホームページ <https://www.pref.kyoto.jp/chiikikokyo/gakusei/chiiki.html>



学生×地域



Facebook



Instagram



X